

# 池田市国民健康保険特別会計赤字解消計画

## 1 基本方針

### (1) 計画の目的

国民健康保険制度は国民皆保険を支えるナショナル・ミニマムであり、本市においても、市民の健康保持のため、国民健康保険制度の適正な運営に努めているところである。しかし、現在、本市国民健康保険の運営状況は、高齢化の進展、無職の被保険者の増加により、医療費が増嵩し、保険料収納率が低下する中、厳しい財政状況となっており、平成26年度末の累積赤字額が約5億8千万円と、国民健康保険特別会計の全支出額の約5%となっている。

国民健康保険特別会計の財政健全化は、喫緊の課題であり、健全な財政運営及び計画的な累積赤字の解消を行うため、今後、本市の国民健康保険特別会計財政運営の指針として、本計画を策定することとしたものである。

### (2) 取組みの基本方針

国民健康保険の累積赤字の解消については、保険料への適切な賦課、収納対策の強化などを中心に実施する。

### (3) 累積赤字解消の期間

本計画は、平成27年度から平成33年度の本市国民健康保険特別会計の財政運営を対象とする。

## 2 過去5年の累積赤字の状況

単位：千円

年 度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
単年度収支	103,530	158,276	▲81,347	▲83,348	74,834
累積赤字額	▲649,893	▲491,617	▲572,963	▲656,311	▲581,477

## 3 平成26年度及び平成27年度の予算等の状況

別紙のとおり

## 4 累積赤字の要因

本市では、平成14年度から単年度収支が赤字となり、平成17年度には実質収支も

赤字となった。

保険料の現年度収納率は平成21年度以降向上しており、予算算定時の予定収納率については平成18年度までは95%であったが、段階的に引き下げ、平成19年度から平成21年度までは94%、平成22年度から平成26年度までは92%に設定していた。しかしながら、実績収納率との乖離は5ポイントを超えており、保険給付に見合う収入を確保することができなかった。

また、こうして発生した累積赤字を解消するための一般会計からの繰入は実施しておらず、平成26年度末で約5億8千万円の累積赤字となった。

#### 各年度の予定収納率と実績収納率（一般被保険者現年度分）

年 度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度
予定収納率	95%	94%	94%	94%	92%
実績収納率	84.48%	83.59%	83.32%	84.33%	84.67%
乖 離	10.52%	10.41%	10.68%	9.67%	7.33%

年 度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
予定収納率	92%	92%	92%	92%	90%
実績収納率	85.03%	85.78%	86.44%	86.35%	
乖 離	6.97%	6.22%	5.56%	5.65%	

## 5 計画期間中の累積赤字解消額

平成26年度決算時点の累積赤字額は5億8千万円であり、平成27年度は1000万円、平成28年度は2500万円、平成29年度は7500万円、平成30年度から平成34年度までは毎年1億2500万円の赤字を解消するものとし、平成27年度から平成33年度までの7年間で累積赤字を全額解消する。

## 6 赤字解消への取り組み

### (1) 単年度収支の均衡

#### ① 保険料賦課の適正化

適正な給付予測と予定収納率をもとに、適切な保険料率の設定を行う。

#### ② 保険料収納率（現年度分）の向上

保険料収納業務職員を1名増員し、未納者への電話催告や分割納付の履行監視等の収納対策を強化することにより、予定収納率の収納を確保する。

#### ③ 医療費適正化対策の推進

レセプト点検の強化、ジェネリック医薬品の普及促進等、医療費適正化のための施策を推進し、支出削減に努める。

④一般会計からの繰入

地方単独事業実施に伴う国庫支出金の減額分のうち、府補助分を除く額を一般会計から繰り入れる。

(2) 累積赤字の解消

①滞納繰越分保険料での対応

滞納繰越分保険料収入を現年度分保険料率の算定の際に収入として含めていたが、算定に含める額を段階的に減額し、累積赤字解消のための財源とする。

②滞納繰越分保険料の収納額の増加

保険料収納業務職員による分割納付の履行監視、債権回収センターとの連携による滞納処分等の収納対策を強化することにより、滞納繰越分保険料の収納額増を図る。

7 年度ごとの累積赤字解消額

(単位：百万円)

年 度		平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
前年度累積赤字額		▲582	▲572	▲557	▲482
解消方法	① 滞納分保険料での対応	0	0	50	85
	② 滞納分保険料の収納額の増加	10	15	25	25
単年度赤字解消額		10	15	75	110
累積赤字解消総額		10	25	100	210
当年度末累積赤字額		▲572	▲557	▲482	▲372

年 度		平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度
前年度累積赤字額		▲372	▲247	▲122
解消方法	① 滞納分保険料での対応	100	100	100
	② 滞納分保険料の収納額の増加	25	25	25
単年度赤字解消額		125	125	125
累積赤字解消総額		335	460	585
当年度末累積赤字額		▲247	▲122	3